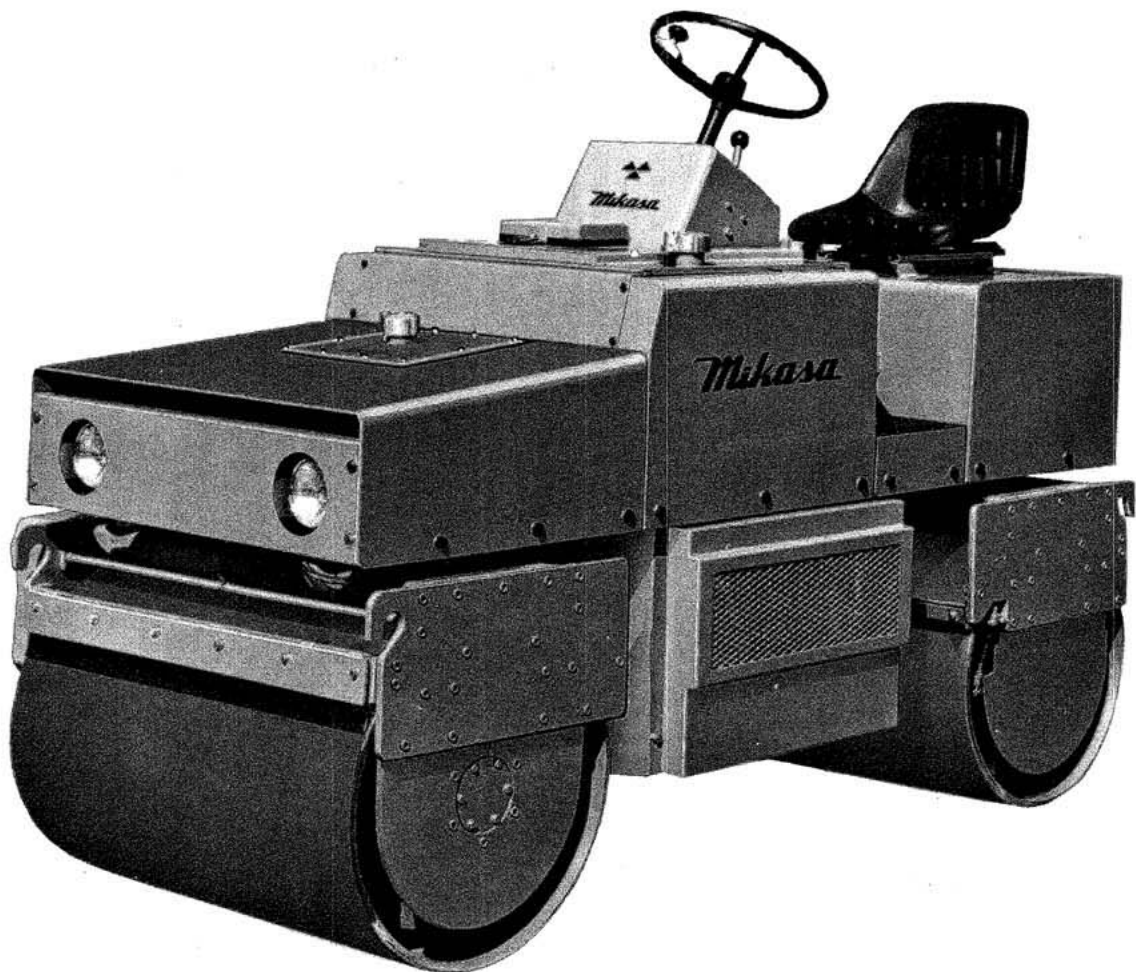


MDR-20N型

ダブルパイプレーションローラー



機能的スタイルの
搭乗型両輪駆動の両輪振動で
登場

三笠ニューズ

発行所
東京都千代田区築港町1-4-3
三笠産業株式会社
電話 東京(292)1411 大代表
テレックス 222~4607
郵便番号 101 番
PR旬報 年4回発行

パイプレーションローラーは世界的な傾向として、小型のものでもローラーと一緒に作業者がついて歩く形式（ハンドガイド式）から、ローラーに乗って作業する形式（搭乗型）に移りつつあるようです。
三笠産業では80年代の新たな要求に応えるべく、各所に新しい機構を採り入れた、国際的感覚に基づくデザインで、機能的なスタイルのMDR-20N型ダブルパイプレーションローラーを生産することになりました。
このローラーは前後の両輪に動力を伝えて走行ならびに振動を起す、いわゆる搭乗型の両輪駆動の両輪振動タイプで、海外でも大きな反響を呼んでおります。

登場

今から十七年前の昭和三十八年に三笠産業では、MDR-12型パイプレーションローラーと呼ぶ搭乗型のローラーを生産に移しました。
このローラーは、二軸偏心振子による上下振動と言う独特の起振方式で、稀にみる強力な締め固め性能を大きな特長としていました。
事実、このパイプレーションローラーに勝る締め固め機構はない、との評価を得ていたところも二、三に止まらずありました。
時の移り変わりに伴い、パイプレーションローラーの機構も変化を遂げ、三笠のローラーの主流はいつか、ハンドガイド式にとって変わりました。
しかし、このハンドガイド式ローラーにも搭乗装置を取付けることにより、乗ったままで作業をしたい、とする向のご要望にはお応えすることができてはおりませんでした。
これはあくまで補助手段に過ぎず、本格的な搭乗型ローラーとの距離があるのは否めません。
三笠の技術部だけではなく、営業は勿論のこと、全員が永年にわたり心の中で育んできた構想を、具体的な形として纏めたのが今回のMDR-20N型パイプレーションローラーです。

構造と特長

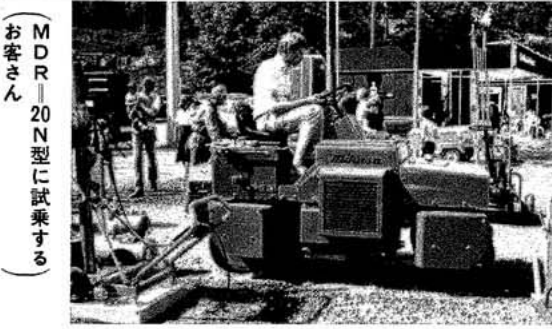
二年前に出来上がったMDR-20型の原型に、あらゆる角度から検討を加え、海外からも実情に即した貴重なご意見や改良案が寄せられました。
そのなかでも、安定性、乗り心地、ハンドルの切れ具合等が重視されました。
また、作業性能の向上については改めて申すまでもありませんが、使い易いローラーに仕上げることに努力を集中した結果は、どうやら報われたようです。



海外の展示会場でのMDR-20N型とMDR-7G型（手前）および9D型ローラー

安定性は、見た目の安定感も大事な要素です。
MDR-20N型は原型と比べると、車体の全高は同じですが、全幅が210mm、ドラムの幅で160mm拡がって、全高と全幅の比率が、原型の0.57から0.69となり高さに比べ横幅が拡がった形となりました。見る人にもどしどし安定した感じを抱かせます。
エンジンをはじめ油圧トランスミッション、オイルポンプ、減速機等比較的目方の重い駆動装置は、車体中央部分の下の方に配置されています。このため重心位置も低く抑えられ、車体の傾斜角度が基準値を越えても転倒することのない、実質的にも安定性の高い構造が採られています。
パワーステアリング機構の採用によって、ハンドル捌きは軽くなり、またハンドルの切れもシャープさを増して、切った方向に車体が素直に向いてくれると言う感じがあります。
MDR-20N型はいわゆる、アーティキュレート式の操行方式で、ハンドルの切るとリンクで繋がれている前輪と後輪とが、継手部分で折れるような形でお互いに動くので、回転半径が小さく、こま回りが効き、狭い場所での締め固め作業がやり易くなります。
また前輪の通った跡を後輪がなぞるように、ほぼ同一の軌跡上を締め固めます。
起振装置は、前輪および後輪のドラム内に装置され、それぞれの振子は油圧モーターで駆動されていて、土質に応じて前輪または後輪だけを単独に振動または停止させたり、あるいは前後輪同時に振動を与える等、油圧モーターの制御は運転席の起振レバーにより遠隔操作されます。

前輪または後輪のそれぞれが発生する遠心力は、前輪が三五〇〇VPMの振動数に於いて一五〇〇kg、後輪の場合は三〇〇VPMに於いて同じく一五〇〇kgの遠心力を発生します。
また前輪と後輪を同時に振動させた場合は三〇〇〇kgの遠心力を発生します。
しかし、この強烈な振動も作業時には伝わらないように、ドラムの内部で防振され、更に車体の防振ゴムを介してフレームが取付けられ、座席やハンドルに不快な振動が伝わらないようになっています。乗り心地も良くできています。
MDR-20N型のトランスミッションにはセブンローラー（MDR-7型）やナインローラー（MDR-9型）でお馴染みのHST（油圧トランスミッション）が使われていて、走行レバー一本の操作だけで、走行レバー一本の操作だけでスムーズな発進ならびに前進、後進が、エンジンの回転を一定に保ったままで行えるので、微速の前進も容易にできますし、また、初めてこのローラーを扱う人でも、短い時間で運転操作になれることができます。



MDR-20N型に試乗するお客さん

MDR-20N型ダブルパイプレーションローラー仕様

型 式	MDR-20N型	水タンク容量	130ℓ
機体の寸法	高 1,680mm 幅 1,160mm 長 2,260mm	使用エンジン	ヤンマー 3 T72HL
ローラーの寸法	外径 610φ 幅 960mm		17.5PS/2,800r.p.m
振 動 数	3,500v.q.m(前輪) 3,000v.p.m(後輪)	燃料タンク容量	26ℓ
遠 心 力	3,000kg(前輪 1,500kg 後輪 1,500kg)	オイルタンク容量	80ℓ
走 行 速 度	0~6 km/h	回 転 半 径	3.5m
登 坂 能 力	15°	総 重 量	2,000kg

三笠の振動ローラーの陣容もこの度のMDR-20N型ダブルパイプレーションローラーの登場により、ますます充実されてまいりました。何卒、新機構を備えたMDR-20N型をご使用ください。



（テスト中のMDR-20N型）

昭和五十五年度 東部地区三笠代理店会

サンシャインシティにて催さる

5月21日～22日



第23回 東部地区三笠代理店会

東京・池袋のサンシャインシティ・プリンスホテルの間に於いて、東部地区の代理店四十六社、輸出関係の商社十六社、報道関係八社の方々をお招きして、去る五月二十一日(金)から翌二十三日(日)にかけて三笠代理店会が盛大に催された。

当日は、あいにくと今にも降り出しそうな空模様の中にも拘らず、三笠の代理店組織の充実ぶりを象徴するかの如く、開会時刻の十三時十五分には全員が参集した。平戸営業部長の司会により、第一部の代理店会は開幕された。

京谷社長よりご来会の皆様にご挨拶があり、冒頭、京谷会長が健康上の理由で、この代理店会に出席し、ご挨拶することができなかったことをお詫言した。

次いで、工場の生産に間に合わず、一時期品不足を呈していたことについて、事情説明と、同時にこれが対策として館林工場の増築工事の進行の具合を説明した。

また、営業報告としては新掘出張所の開設、仙台出張所社屋の新築落成

等をご披露し、業績としては、輸出の伸びの著しいことについて報告された。

次に技術面では、従来の商品の見直し、ならびに改良に力を注ぎ、見るべき成果を挙げたことについての話を、ご挨拶を終わった。

次いで、吉田専務(技術研究所長)より五十五年度新製品のMDR-20N型パイプレス・コンローラー(搭乗型)およびMCD-5SP型コンクリートカッター(防音型、自動切削、油圧駆動)の製品説明が行なわれた。

続いて、営業、技術の各方面にわたっての質疑応答に時間をとり、ご意見を伺った。

最後に小森専務(館林工場長)が閉会の挨拶に立ち、生産を担っているため、日頃お世話になっている代理店の皆様との疎遠をお詫言して、第一部の代理店会を終了した。

引き続き会場をホテル一階の玄関脇に移し、新製品の展示場へ移した。

特にMDR-20N型ダブルパイプ・コンローラーは、この機種が三笠にとって新しいシリーズの誕生であることから、皆様の注目を浴びた。

折から蔵前の国技館で行われていた大相撲の五月場所十一日目を観ることがこの代理店会の第二部である。

サンシャインシティからバスに乗り、蔵前の国技館へと向かう。

一同は、横綱の土俵入りから打出しまでの熱戦を観戦した。

降り出した雨のなか、再びバスでサンシャインシティホテルへ戻る。

十九時三十分より三階天山の間に三笠行進曲のバンド演奏が流れるなか、萩本営業部長の司会で第三部の

懇親会が始まった。

開宴に先立ち、吉田専務より本日のスケジュールに対してご協力を賜ったことを謝し、今席に懇親の華を咲かせていただきますように、とご挨拶を申し上げた。

次いで代理店を代表され、三洋機械(盛岡市)菊池社長より、「日頃の三笠のメーカーとしての技術に磨きをかけ、それをこの様な催しを通じて発表し、代理店各々に見識を深めさせて行く姿に大いに感心し、賛辞を送ります」と、我々を力づけてくださるご祝辞を頂いた。

そして報道関係者を代表して、日刊建設産業新聞社の花村社長より、「私の報道人としての人生の中で三笠の歴史を目のあたりに見て来た。三笠の四十数年の発展の流れはその時代と共にあったのを見るにつけ感嘆して来た」とのお祝いの言葉を頂いた。

続いて伊藤忠商事(株)吉原部長の音頭により乾杯して祝宴に入った。

バンド演奏をバックに宴は続き、北は北海道・東北から、関東・東海地区の代理店のお客様、皆様の毎年の代理店会で前々から願望の方々ばかりである。

互いに肩を叩き、久闊を叙する人々の輪があらにこにみられた。

三笠の社員もそのなかに入り楽し

この度、恒例の昭和五十五年度西部地区三笠代理店会が、五月晴れの好天に恵まれた去る五月二十八日、二十九日の両日、京都・東山の「都ホテル」に於いて、代理店四十七社並びに来賓の銀行、報道関係者多数の御参加を得て盛大に開催された。

二十八日正午、大阪梅田のホテル阪神前に集合の後、貸切バスにて目的地、京都東山へと向かった。

東山の緑に囲まれた会場の「都ホテル」に到着の後、日本建築の粋をこらした周囲の環境にも調和し落ち着いた雰囲気を感じた数寄屋造りの別館佳水園にて暫し休憩。

午後二時より野外特設展示会場に於いて、第一部三笠製品実演説明会



西部地区三笠代理店会

技術部の各担当者よりMCD-5SP型コンクリートカッターを皮切りに一機種ずつ披露、説明及び実演が行なわれた。

これに対して熱心に見学、質問される代理店の皆様は今年も三笠の技術力に対し感嘆され満足な顔が如何にも印象的であった。

尚、前記の他にMDR-20N型(搭乗型)パイプレス・コンローラーの技術説明が行なわれた。

三笠建設機械の窪田本社営業部長の進行により議事が進められ、始めに三笠建設機械(株)小野社長より、続いて三笠産業(株)京谷社長より挨拶があり、「メーカー三笠産業の現況について先ず製品につきましては、永年にならざる研究、開発の成果として、この多様化した要求に答えられ得る各種の製品が総合型録の四十六頁にわたって、六十数機種、三百タ イプにも及んで用意されております。これは他のメーカーが一朝一夕には成し得ない絶対的な三笠の強みであり、又厚みでもあるわけであります。この特色を最大限に生かし、製品の一つ一つにつきまして更に強く威力化してゆくための見直しを進め、シリーズ化、改良等を積極的に行なうて行きたいと考えて昨年より実行致してある次第であります」と順次製品、生産のことと営業面と順を追って挨拶された。

続いて、三笠建設機械(株)小野専務より代理店並びに来賓の方々を御一方づつ御紹介され、三笠産業(株)京谷専務より改良品の説明があり、その後質疑応答が熱心に取り交わされ時間を延長する程であった。

御休息を挟み、四階宴会の間へ会場を移し、第三部の華々しい懇親会に入った。

先ず、小野専務の開宴の挨拶に始まり、西部地区代理店を代表して、広島の宝物産(株)長谷川社長が御挨拶され、来賓の代表として、三菱銀行大阪支店伊藤支店長より御挨拶を戴き、続いて



(三笠建設機械(株)小野社長の挨拶)

江)の原田社長による乾杯の音頭により祝宴に入った。

盃を重ね御挨拶のボリウムも上り、京の舞妓さんや芸者さんの踊りを見たりしているうちに、代理店の方々によるノド自慢等も楽しく行なわれ、最後に三笠産業社員の三笠代理店会の歌が声高らかに披露され会場割れんばかりの拍手喝采を浴びた。

時間の経つのも忘れ格調高い京の宴を満喫し、岡田九州出張所所長の音頭により万才三唱をして盛會に幕を閉じた。

鈴木記



(安全専門官の講話)

初日、十六日の最初の講師は、群馬労働基準局の飯塚安全専門官の労働安全衛生法の関係法令の講義から始まった。

続いての学科は各講師がそれぞれの専門分野に於いて担当し、振動ローラーを中心としての構造、検査点検、判定方法等の講義が、梅雨のなか休みで連日むし暑さが続くなか、館林工場の会議室で繰りひろげられた。

さすがベテランのサービスマンも現場でスパンを持つとは勝手が違つて、一日八時間、椅子に腰かけてノートをとるのは、さぞかし苦痛であったことと、お察し申上げる次第である。

しかし、ここが根性の見せどころとばかりに、皆さん大いに努力の甲斐あって、学科試験は全員合格、それも平均して高い得点を獲得されたのは、私共も大変に嬉しかった。

実技研修となる、打つて変わった、水を得た魚のように馴れたもの、しかし、チェックリストの記入項目を噛みしめるように読みながら、実習用の振動ローラーを点検している姿は大変印象的であった。

同じ目的に励んだこの五日間は充実した日々であった。

森記



(実技研修の一コマ)

我が三笠産業は会場中央の開口20 mの展示小間に、今話題の高周波バイブレーターを始めローラー、ライナー、コンパクター、カッター等主力製品を展示し、多数のご来場者の中にじゅっくりとご覧いただくことが出た。中でも5 A型大型防音カッターや、他に類のない重機圧の300型ブレードコンパクター等はこれからの時代の機械だと人気を呼んだ。又、昨年十二月に落成した三笠産業仙台出張所が展示会場に近かったため、まだ出張所をご存じない他県からお越しの代理店、特約店の方が多数出張所にお越し戴き、より一層の親睦（地元の名士多数が参列して盛大）に行なわれた開会式

展示会場でも特に人気の三笠展の場には早くから盛岡、青森、秋田の代理店の方々やマイクロバス等でも見えたいただき、熱心に三笠製品を見学され、又、展示会応援に来ていただく三笠の技術員とも親しく懇談する風景もみられ、日頃なかなかできない親睦をはかってもらい、数多くの理場の声を聞かせてもらった。

三笠の展示場の見学を終了したお客様それぞれに各展示小間を見て回られていた。

遠来の代理店様の中には、仙台張所の新社屋を早くこの目でみたという方が多く、続々と出張所に来ていただき、日常業務をあまりとなく見ていただいた。忙しさに充ちて充実おてもないし出まされ

場者があり、三笠の小間にも多数のお客様が見え、詰員の説明に真剣に耳を傾けておられた。また、詰員一同も、少しでも三笠製品の良さをお客様に分かって頂くとうと真剣に説明させてもらいました。

今回の展示会のメインテーマ「80年代の東北を拓く」とある様に、いよいよ本格的に東北の発展する時が到来しました。その先陣に立つべく我が三笠産業、より力強く前進しようとうと決意した一日でした。

仙台課 河合記

五月二十四日(出) 快晴

初夏を思わせるような快晴のもとより、朝早くから地元宮城県はもとより、東北各地から沢山の来場者を迎えた。

（三笠の展示小間）

を深めることのできたのは今後の販
販に役立つものと確信している。
次に掲げるのは展示会の毎日の印
象を各チームの長が綴ったものであ
る、三笠の展示場の盛況ぶりをご想
像いただければ幸いである。

五月二十三日（金） 晴

東北地区の建設機械業界の一層の
発展を期する建設機械展示会の開
式が青天の下、午前十時より盛大に
行なわれ、五日間にわたる展示会が
スタートした。

初日にもかかわらず、数多くの車



五月二十七日(火) 晴
 仙台課 和泉記
 展示会最終日の今日は昨日の雨も上がり快晴に恵まれ来場者数五千〇〇名三笠展示場へも三笠の代理店を初めとして建設業者や建設省関係とあらゆる層の方が見られ大いにPRの効果があつたものと感じた。
 展示品に於ては特にインヘッター大型カッターに人気が集り各人が説明を乞うところが多く今後の製品として大いに期待できるものと思う。活況を呈した展示会も五日間の日程を無事消化し「ホテルの光」の音聲と共に幕を閉じた。

午後になってようやく小降りとなった。会場内は水浸しの状態となり、ポンプで排水しなければならぬ程であった。

この雨の中を土曜、日曜程ではないまでも、来場者が多かった。市内及び近郊のデューラー、ユーザーさんが中心ではあったが青森、秋田等県外からのお客様も少なくなかった。新製品のバイプロタンバーに興味を示される方が多かったが、インヘクター、エアーハンマー、5A型ツッターのカット見本等普段あまり見られない物を熱心に御覧いただいたいわゆ

様である。

雨模様で客足が心配されたが、予想以上にお客様が来られた。ありが

でしたが、お客様と我々が一層強い絆で結ばれたのを感じ、皆様がこの展示会で得た知識を充分活用されることを期待したいと思ひます。紙面を借りまして三笠製品の拡販御協力をお願い申し上げます。

五月二十五日(日) 晴
仙台課 小林記

当展示会の開催期間のなかで迎えた本日の日曜日は、ちょうど展示会の中日にもあたり、五月晴れのもと多くの入場者があり、たいへん盛り上がりを見せた。

この日も、前日の土曜日と同じように、地元のお客様さんばかりでなく他県からのお得意さんが大勢、三笠の展示小間に訪ねて見えられた。

そしてお帰りに休日も拘らずわざわざ我が仙台出張所にお立寄りいただいた。

日曜日ということもあって家族連れも目立つ会場内で、三笠の小間にも機械好きの子供達が集まり、試演転をせがむ等の一コマもあり、詰目も未来のお客様を大切に、サードビースにあい努めました。

仙台課 菊池記

五月二十六日(月) 雨
初日以来快晴に近い空模様が続いていたが、本日は朝から雨模様で、特に午前中は大粒の雨が降り続き、

春日部市は、昭和二十九年に春日部町、豊春村、武里村、幸松村、豊野村の一町四か村の合併により誕生。以来首都圏35キロに位置し、埼玉県東部地区の交通・文化・経済の中心地として発展してきた。そして現在は人口15万人を越すベッドタウンとなっており、この数年の急激な人口増加により春日部西口側の発展は著しい。

特に駅前に高くそびえるコンベンチューア内臓の立体自転車駐車場は、約二五〇〇台もの自転車を収容できるので、従来までの自転車通勤者の悩みを解消し、駅前の混雑もなくなつた。

尚、この駐車場は日本で初めての試みであるという。

又、牛島の藤柳はその広さや樹令などでも有名だが、その市の花で新鮮か

つ美しい町づくりをしよう」と駅から大沼グランドへ続く広い道の両側には涼しげな藤棚ができてつづつある。さて春日部工場の位置は、駅より東南2キロ、国道4号線を東京方面に進み、東武野田線の高架をくぐるのとすぐ左手に大きな看板が目にはいってくる。意外にも住宅街の真中であつた。

私は、にこやかに工場長を迎えられ、さっそく日課のラジオ体操をおれ、稲荷さんのある事務所前広場で工場の人達といっしょにし、工場長の気合なのはいつた言葉を聞いて、みんな張り切って持ち場へ散っていくのを見守つた。

全員が、工場長のモットーであるところの「少数精鋭主義で効率よく働く」を高く掲げ、一二〇〇坪の狭

梅雨空のもと
六月二十七日(金)午後三時から、三笠産業館林工場の増築建物の上棟式が京谷社長、小林専務(館林工場長)はじめ関係者、ならびに工事担当の石橋建設(株)社長以下、各業者が参列し、尾島稻荷の田島昌司の司祭により厳かに執り行われた。

本年一月の三笠ニュース掲載の京谷会長の年頭挨拶のなかでもふれていた、館林工場の増築の計画はその後急ピッチで進展して、地鎮祭を行い、直ちに工事日程に基いて、建設工事が開始された。館林工場は昭和四十六年四月に現在の工業団地に新工場を建設し、旧工場より一切の機械設備等を移転し、工場の規模を拡充したが、その後、昭和四十九年二月には増加する需要に追いかけるような形で、一棟の組立工場を増築し、生産の向上を計った。

その後も、皆様のお陰をもって、生産増強した数量を上廻る程のご注

文のため、一部商品では品不足をきたすような有様となり、これが為、前回の組立工場と同規模の建物を再び増築することとなり、今日の上棟式を迎えた。

今回建築の建物は、前回の増築分と同じ面積で、二六〇八平方米（約八〇〇坪弱）あり、既存の組立工場の西側に6.5mの通路を挟んで建てられている。

鉄板で屋根も葺きあがって、腰まわりのブロックも、きれいに積み上げられていて、普通に見なれている上棟式からすると、工事はかなり進行されていて、間もなく竣工とさえ見



（工事が急ピッチで進む館林工場増築現場）

春日部駅西口 右手の白い建物
が立体自転車駐車場



い敷地ではあるが無駄なく有効に活用しようとして5つのチームに分かれて意欲的に働いている。

私は、工場長について4つに分かれた工場を熱心に案内していただいたり、又事務所では春日部市の歴史や工場の歴史を分かりやすく楽しく説明していただけて豊富な資料を得ることができた。

何といっても今回の取材の大きな目的は、第4工場にある3台のコンピュータ内蔵の工作機械であった。

とにかく数年前までは、すべての機械が一つの動きしかできなかったため、重い部品をあちこち運ぶだけのために大変な労働力と時間の無駄をしていたが、今ではこの一台で10数役役もこなせる機械のおかげで面倒な加算工が一段と精度を増した上、楽にこなせるようになり、今では人間も一度に2台の機械を監視するだけのゆとりを持つことができるぐらいだ。

これからは、この機械が三笠の類もしい製造の戦力としてその力を思いつ存分發揮してもらいたいと今後の期待は大きい。

しかし他の古い機械も比較的新しく見える。これはきつと工場の人達全員が、「ものを造り出していく」という誇りを持っているから手入れが行き届いているのだろう。

そのようなみんなの気持ちには「常々に20代だよ」と工場長は活気に満ちた目で語ってくれた。

いろいろと工場長と話をしているうちに「おやじ!!」と工場の人達はもちろん、下請けの人達はじめ工場に入りする人達からも呼ばれ慕われていたというわけがだんだんわかってきた。また工場長のそんな気さくな人柄がこの工場の内にあふれているように思えた。

狭いスペースでの効率良い生産は



(工場長の説明に耳を傾ける筆者)

現在でさえも需要に追いつかないのだから今後さらに増加する需要に如何に対処するかが大きな問題となっている。

そして当然今後の課題となるのは、「回りに気にとることなく機械を充分活用できる広い場所に早く移転することである。」と工場長は力強く語られた。

現在、生産の充実・拡大を計るため館林工場を増築しつつあるが、次は春日部工場の番であろう。

武田記

えるまでの状況にまで仕事は進んでいる。

それと言うのも、雨で工事が中断されることを予想し、工事の前半でかなり拍車をかけたことが功を奏したのであろう。

その上、今年は梅雨に入っても、それ程の雨も降らず、工事日程を上まわる進行ぶりとなり、工事関係者一同の労苦が報いられた。

八月下旬の工事完了、引渡しまで余すところ一ヶ月余り、これから暑い時期を迎え、工事に携わる皆さんのご苦労をお察すると共に、無事のご完了することをお祈り申します。



三笥産業 提供(月・水・金)

**プロ野球
ニュース**

8 アジテレビジョン

午前 6 : 40 ~ 7 : 10

三笠産業 提供(月・水・金)
プロ野球
ニュース
8 **7**ジテレビジョン
午前6:40~7:10

秋田営業所開設

同營業所は市内の中心地にある
県庁や市役所・文化会館・体育館な
ど公共施設が建ち並ぶ、官庁街な
にも近く、国道七号線に面した交通
の便と立地条件にめぐまれたところ
で、二〇〇坪を有する敷地に鉄筋四
階建ての事務所と倉庫、裏には二階
建ての社宅を完成した。建物内は一
階が事務所と倉庫、二階と三階は倉
庫、四階は倉庫と会議室になってい
る。社宅は部屋数が七室あり、談話
室や台所なども広く、社員の方たち
も十分くつろげられるような設計に
なっている。また、倉庫の戸口も広
大にして古くから積極的にご活用
頂いております。同營業所が開設さ
れたことにより、秋田県内はもちろ
ん、青森県の一部から山形県の海岸
地域を中心に販路を拡げて、仙台
地域を中心として次ぐ三番目の拠
点となった。これで関東一円から東
北地方全域にわたる販路拡充とアフ
ターサービスなども一段と強化され
ることで地元の販売店などからも大
きな期待を寄せられている。
最後に臨み宮城銅具さんが、今後
更に益々ご発展されることを心より
お祈り申し上げます。

大沢記



中道機械産業(株)水戸営業所

新築落成記念式典催さる

茨城県下の三笠代理店としてご活躍頂いている中道機械産業(株)さんのおか水戸営業所(西野勝一所长)におかれましては、かねてよりビルの中のもの事所からの移転を計画しておりましたが、去る六月十九日(木)に新社屋がめでたく落成し、晴天の下で落成記念式典を行なわれました。

新社屋は総敷地面積一八〇㎡、柱屋二四〇㎡で、小型汎用機を展示するショールームも併設しています。また、重機の展示場には屋根が取付けてあり雨にぬれないよう配慮されています。

所在地は現在発展しつつある水戸バイパス六号線沿いで土浦方面から

向かうと水戸車検場を左折して五〇m程で、交通の便の非常によいところです。

三笠製品もMTR-80H型ランマを一を始めコンクリートカッター、各種パイプブレーター等がショールームに展示されています。

また、西野所長を始めガッツのある社員の方々は三笠製品の販売に対して積極的な姿勢で臨まれ、拡販に絶大なる御協力を頂いており、誠に敬服するものであります。

新社屋の完成を機に中道機械産業(株)及び水戸営業所の今後益々のご発展をお祈りする次第であります。

向成記



第13回
省力機器展示会行なわる
主催 丸金商會

愛知県豊橋地区の三笠代理店である(株)丸金商會に於いて、さる四月二十七日(日)に、恒例の省力機器展示即売会が開催された。今回で十三回目を迎えた展示会も今年は雨かと思われたが、見事ジンクス通り開催時間中はずもつてくれて十時のオープンと同時に多数の御客様が来場されていた。昨今の省エネルギー時代を反映利用のソーラーシス機器の展示が人目をひいた。当社の省エネルギー型バイブレーター、MT型バイブレーションローラー、MT型80H型ランマー、MVC-70FF型プレートコンパクター、高周波バイブレーターをはじめとする各種輾圧機、バイブレーターを展示した。また、この二日間の展示会場をかりて特に高周波バイブレーターを主として三笠のサービスマンによる三笠製品のアフターサービスマン活動を行ない、ユーザーさんより好評を博し今回の展示会を成功裡に終了する事ができた。

東部重車両工業(株)会津支店

新製品発表展示会行なわる

今後益々多様化するユーザーの諸要求に対して今迄以上の即納態勢で対応されようとしている東部重車両工業㈱さんの今後益々の御活躍をお祈りする次第です。



昭和54年度販売コンクール
輸出課5度目の優勝

昭和54年度販売コンクール 輸出課 5 度目の優勝



(喜びの輸出課一同)

この日、高野次長はタイ出張のため、藤村課長が代表として、谷社長より優勝章を受け取った。「商工場、技研、本社、そして世界中の代理店の人たちの協力により優勝する事ができた。一時、円安という海外の商況もあり、運がよかった。」と藤村課長は語っていた。厳しい時代ではありますが、各課の活躍を期待します。

塚田記

第十六回全三笠野球大会行わる

四年ぶりに本社チーム優勝

日本列島は異常気象に？に見舞われ例年になく桜の開花も遅れていたが、漸く桜も咲き初めた四月八日(火)恒例の全三笠野球大会が、よそおいも新たに改装された春日部市大沼のグラウンドに於いて催された。

今年は数えて第十六回目の大会である。当日は花曇りとも言うのか、朝のうちは多少肌寒かったが、各チームの練習が終った頃には球場内は熱気に包まれていた。

午前九時十五分、昨年優勝した館山2で技研チームを降し、勝利を収めた。

続く第二試合は本社チームと春日部チームの間で行なわれた。この試合は地力に勝る本社チームが二回表と五回表に打者一巡の猛攻を見せ、結局10対0で春日部チームをノックアウトし試合をものにした。心配されていた空模様も試合の熱気に負けたのか、どうにか持ちこたえた。

昼食の時には本社応援団から焼ソバの差し入れもあり、常日頃お互い

昼食後は昨年と同じ組合わせとなつた館林チーム対本社チームとの決勝戦が行なわれた。

二年連続優勝を是非とも達成したい館林チーム、片や優勝旗奪還が非願の本社チーム。好試合が期待されたが、選手以上に燃えたのは両チームの応援団。

本社が軽快なリズムにのつて踊るチアガールを先頭に応援すれば、館林は学ランに男くさを強調した応援で応酬し、試合より見ごたえのあ



(優勝した本社チーム)



(館林工場の応援団)

決勝戦の日は予想どおりの1点を争う迫力のある好ゲームとなり、四回を終了して4対3と本社1点のリード。このまま本社が逃げ切るかと思われたが、五回表で根性を見せた館林は、四球で出た山岸選手が盗塁とエラーで本塁を踏んで同点となり、五回裏の本社の攻撃を零点到押えて遂に延長戦に持込んだ。

こうなると追う者の強みか、延長六回の表に館林が1点を加えた。これで勝負あったかに見えたが、ところが、この裏の攻撃では本社は四球と安打で先ず同点となり、なおも一死、二塁三塁と攻め、一番小笠原選手の打ったセカンドフライを二塁手が落球、その間に三塁から倉田選手が本塁を踏んで本社チームが劇的

なサヨナラ勝ちを取めて、昨年の雪辱を果たした。

試合終了後、京谷社長より本社チームに優勝旗や会長杯等が受与され、また多くの個人賞が各チームの優秀選手に贈られた。また本社応援団がこのところ連続独占していた応援団賞は、今回は初めて館林応援団が獲得した。

そして館林工場の斎藤課長が閉会を宣言し、今年の全三笠野球大会は幕を閉じた。

最後に試合終了後の夕暮迫る球場で幹事の方々が無暗と後片づけをしていたことを付け加え、大会運営の裏方さんに感謝いたします。

館林工場 寺内記